



大学院薬学研究院 樋坂章博教授の最終講義が行われました

令和6年3月をもって退職される大学院薬学研究院 樋坂章博教授の最終講義が、2月9日(金)に薬学部創立120周年記念講堂にて行われました。

樋坂教授は、昭和59年に北海道大学院修士課程を修了し、東京大学特任准教授等を経て、平成26年に千葉大学大学院薬学研究院教授(高齢者薬剤学(現臨床薬理学)研究室)に就任され、これまで疾患進行や薬物動態の解析の分野で活躍し、本学の教育・研究に貢献されました。また、薬剤師教育や医薬品開発にもご尽力されました。

最終講義は、森部薬学研究院長、高野評議員からのご紹介のあと、演題『私と薬と大学の相互作用』についてお話しされ、学外の方や本学の教職員・学生など、オンラインを含め約200名が熱心に聴講しました。

講義終了後には博士課程の大学院生からの謝辞と、学部生より花束が贈呈されました。樋坂教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



講義中の様子



研究室の学生より花束贈呈